

ちいさな証

神様の子として
ゲルンケマイヤー・マーク
スイス日本語福音キリスト教会



みなさん、こんにちは。
ゲルンケマイヤー・マークと申します。数ヶ月前、JEGの会員になることができたので、ここで小さな証をさせていただきます。

長い間、証をすることが怖いと思っていました。その理由は、証というものは私がどのように神様を見つけたのかを話すものだと思っていた

からです。私はクリスチャンホームに生まれたので、神様を知るのに大したことをしていないから、私にはちゃんとした証がないと長い間思っていました。逆に今は、証は神様が私の人生に何をしてくださったかを話す事だと思っております。ですから、神様が私の人生に何をしてくださったかを語っていきます。

私のお父さんはアメリカ人で、お母さんはドイツ人ですが、私は2歳の時からスイスで暮らしています。クリスチャンの両親に恵まれて、毎週日曜日、教会の日曜学校に行っていました。信仰を持っている両親のおかげで、幼い頃から神様がいて信じていました。7歳くらいの時にお母さんと一緒にイエス様を信じて心に受け入れたいと祈りました。しかし高校生になった時、クリスチャンの友達がほとんどいなくて、学校やノンクリスチャンの友達に良くない影響を受けたので、信教的に高校の時は大変でした。

その時にクリスチャンとして生きるには、何よりもまず自分の力でいろんないいことをやる事だと思いました。定期的に聖書を読みましたが、神様をより深く知るためにはではなく、自分の知識を広げるために聖書を読みました。今思うと知り得た知識は少しかったです。頭ではイエス様が十字架で死んで下さったことによって自分は救われたと分かりましたが、心の中では、自分がたくさんいいことをやっているから救われていると思ってしていました。クリスチャンとして生きるのにはちょっと面倒だなと思ったこともありました。この前の説教でマイヤー先生が持つ必要のない重荷を負っているクリスチャンの話をしました。高校生の私もそういうクリスチャンだったなと思いました。

教会の先輩が高校卒業後に短期神学校へ行ったので、私もそうしたいと中学生の頃に決めました。高校を卒業した後、大学に入る前にギャップイヤーをしたくて、神学校へ行く以外にしたい事があまりなかったので結局、神学校でTorchbearers [聖火ランナーという意味]という団体の6ヶ月間のコースに行くことにしました。今振り返ると、神学校へ行ったことは本当に神様の恵みと導きでした。毎日午前中は聖書について授業があり、午後は祈り会や信仰に関する本のブッククラブやまた家事もやりました。しかし、ただ頭で知識を学ぶのではなく、心も神様に癒されました。具体的にいうと、ヨハネ15章を通して神様に変えられたのです。

「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既にきよくなっている。わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ、実を結ぶことができない。」

ヨハネ 15章3-4節



自分の力でいろいろやっていた時はぶどうの木であるイエス様に繋がっていなかったことに気づかされました。イエス様のおっしゃった言葉によって私はもうすでにきよくなっており、神様の子として愛されています。自分の力でどんなに頑張ってもこの地位を得ることはできないと学びました。

これが分かってから神様への感謝の気持ちや喜びや讃美が増えました。しかし、数週間後には、また自分の力で生きていることにも気づかされました。信仰的な学びは一回学んで次のことへ進むよりも、あることを何回ももっと深く学ぶ必要があると思います。私の場合は主に頼ることさえ自分の力で出来ません。ただし、天のお父さまは忍耐強いお方であり、私たちを毎日新しくし、必要な物を与えてくださるお方です。感謝の心で主を讃美しましょう。

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。あなたの真実はそれほど深い。」哀歌3章22-23節

